



神奈川・レスキューサポート・バイクネットワーク 会報第14号

KANAGAWA Rescue Support Bike Network News

2002年10月1日号, No.14

第14号の目次

- 1、七都県市防災訓練2002報告(2002/9/1)
～震災時活動研究分科会～
- 2、イベントレポート
-草津ツーリング(2002/7/20-21)・太田隆行
- 3、編集後記

七都県市防災訓練2002報告



アリーナ会場での走行風景2002/9/1

毎年、9月1日には、各地で防災訓練が行われます。自治体、消防、警察などのほか、民間でも数多くのイベントが催されますが、神奈川県でも首都圏自治体協同開催で七都県市防災訓練を行っています。七都県市とは東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県・千葉県・横浜市・川崎市の首都圏の都県と政令指定都市において防災協定を設け、同時期に訓練を行うというものです。今年は県と小田原市の共催で行われました。神奈川RＢでも草創期の足柄会場以来の参加であり、七都県市防災訓練小田原会場・海路広域搬送・受入訓練、及び救援物資・帰宅困難者搬送訓練の中に組み込まれる形で参加となりました。当日は移動本部2台(4輪車及び2輪各1台)搬送隊12台、記録班3台、横浜に設置された災害ボランティア本部に3名、小田原城東高校にある地域ボランティア本部に1名という大掛かりかつ広範な参加形態となりました。

また、本部近隣では千葉RＢが千葉会場(柏市)参加し、埼玉、東京のメンバーも合流するなど、自治体やその他防災関連団体に認知されることも含め意義ある訓練参加となりました。

当日の神奈川RＢの訓練状況は、NHK首都圏ニュース、翌朝の朝日新聞、神奈川新聞などにも取り上げられ一定の評価を得られたのではないかと考えます。

以下、本部担当の池田さんのレポートを中心に参加者各位の感想を記します。

小田原KRB本部担当池田さん

池田@相模原

9月1日(日)、今日は防災の日。KRBも、今日の七都県市総合防災

訓練に一般ボランティア団体として参加する。私も微力ながら参加する。小田原漁港に9時集合だ。途中酷い渋滞が無ければ2時間で行ける距離である。余裕を見て、6時15分に相模原の自宅を出た。昨日から息子のお嫁さんと孫が来ている。みんなを起さないように、そつと家を出る。途中セブンイレブンで朝食休憩。おにぎりとコーヒーの朝食をセブンイレブンの駐車場で取る。129号 厚木市内を抜け再び129号へ。道は渋滞もなく順調に進む。相模湾に出ると、右に折れ、134号を大磯方面に進む。大磯からは西湘バイパスに乗り、海岸沿いのバイパスを快調に走る。早川で降り、早川橋を渡ると、直ぐ左手が小田原漁港だ。

バイク隊 漁港集合

8時に集合場所の小田原漁港に着いた。集合時間1時間前なのに、既に太



田さん、矢代さんが来ている。ボランティアと言えども、かなり献身的に時間を作り、グループをリードして行く人達がいるから、グループは存続するのもかも知れない。それにしても、毎回学ぶことが多い。(忘れることも多いけど。) 現実には大災害が発生したら、とても訓練通りには行かないが、訓練を重ねておかかると、その時に、ろくに動けないのも事実であろう。小さなことでも、行動でき、役に立つことが、我々の訓練の結果生れる筈である。



小田原漁港出発

今日のKRBの役目は、横浜から海上を経て運ばれてきた救援物資を、小田原漁港で受け取り、災害時の救援物資終結、分配センターであり、今日の訓練のメイン会場でもある、小田原アリーナへバイクで搬送することだ。私は、坂本さんとKRB本部の役目を

受け持つ。と言っても殆ど坂本さんにおんぶにだっただが、KRB本部を設置する場所は予め坂本さんによって、一べいされている。小田原城の背後にある丘の上にある小田原競輪場の駐車場だ。訓練開始後、坂本さんと私は直ちにKRB本部設置場所へ向った。坂本さんは車、私はバイク。災害時でもバイクから、ここまでこれそう。早速坂本さんの車内がKRB本部となる。ここなら、小田原市全体が見渡せるし、高台だから無線の電波も良く飛ぶ。また、車人混みもなくKRB本部機能の遂行に没頭できる適所である。実際、総合防災訓練の本部(小田原アリーナ)と横浜のサポセンとの無線連絡は、感度良好で実施できた。これは、本番でも十分KRB本部は機能すると確信を得た。

本部設備感想: 本部の無線連絡機能は、十分機能することが確認できた。本部は意外と多忙。無線操作も、メインの周波数と、KRB用周

波数の切り替え運用がかなり大変。一人ではやりきれない作業量である。オペレーターは、2人必要。今回の本部オペレーターは、坂本さん一人で、すごく大変でした。無線の周波数を切り替えたり、無線の交信中に、突発的に掛ってくる電話の対応をしたり、無線機も、2台、違った周波数で同時に運用することが求められる。更に記録係も専用が必要。リアルタイムで新しい情報が刻々と入ってくる。オペレーターが記録するには無理がある。また坂本さんの指摘していますが、今回の本部は車を利用したが、本番では、仮設テントのようなもので、2台の無線機を同時に使用できる環境作りが必要。水、非常食の持参も忘れてはならない。

本部記録内容

- 06:20 相模原発
- 08:00 小田原漁港着、矢代、太田既に来ている
- 08:58 小田原漁港から、小田原アリーナの防災訓練本部局と交信
- 09:15 参加予定者全員集まり、小田原漁港でKRBミーティング
メインの周波数(433.22MHz)はアリーナ防災訓練本部
が殆ど使いっぱなしで、KRBメンバーは432.12MHz)に
切りかえる。
- 09:45 KRB本部 小田原競輪場駐車場に到着
- 09:51 小田原アリーナ本部局から訓練無線を発信
- 09:58 小田原漁港のKRB隊から、荷物受け取り中の連絡入る
- 09:59 KRB本部から、状況をアリーナ本部へ連絡
- 10:00 アリーナ本部本部から横浜サポセンへ連絡
- 10:02 横浜サポセンから状況確認の連絡あり
- 10:03 KRBバイク隊神林さんから状況運有り、積みこみ完了
- 10:04 KRBバイク隊 小田原漁港を出発
- 10:06 アリーナ本部へKRBバイク隊の出発を連絡
- 10:06 アリーナ本部から横浜サポセンへ連絡
- 10:06 KRBバイク隊早川橋を走行中連絡あり



小田原市内走行風景

- 10:08 KRBバイク隊との交信
- 10:09 メインの周波数(433.22MHz)で防災試験電波発射(画像データ)
- 10:10 KRBバイク隊箱根口通過

- 10:12 KRBバイク隊市民会館前右折・新宿交差点通過
- 10:17 KRBバイク隊城東高校前通過
- 10:21 小田原アリーナ本部へKRBバイク隊状況連絡
- 10:22 小田原アリーナから横浜サポセンへKRBバイク隊状況を連絡
- 10:23 KRBバイク隊東海道線をくぐる
- 10:25 KRBバイク隊扇町五丁目通過
- 10:27 KRBバイク隊狩川橋通過
- 10:27 KRBバイク隊小田急線蛸田駅横通過
- 10:29 KRBバイク隊先頭アリーナ会場到着
- 10:30 メインの周波数は自衛隊との交信で使用出来なくなる
- 10:32 KRB本部移動、坂本、池田小田原アリーナへ向う
- 10:54 KRB本部 小田原アリーナ着
- 11:55 KRBバイク隊 バイク整列入場準備

- 12:03 KRBバイク隊 メイン会場へ入場、会場内走行
- 12:10 KRBバイク隊 救援物資を引渡し、任務終了
- 12:30 閉会式

炎天下、来賓方々の挨拶を聞く。訓練は繰り返し行うことに意義があることを改めて認識する。



- 13:00 アリーナ会場出発
- 13:25 反省会会場着
- 14:30 反省会終了
- 16:46 相模原着

本番では、もっと自主性と、柔軟な対応が要求され、厳しい現実直面するであろう。だが、今日のような訓練は、そのような事態に遭遇した時、すこしでもより柔軟に、より迅速に対応できる自分達を造っているに違いない。



訓練も終わりバイク隊全員集合

横浜・かながわ県民サポートセンターインターネットボランティア支援チーム・永田

サポートセンター11FでPC班を担った後、別活動の会合に参加～ただいま人様のIT講習をやって夜遅くに帰ってきました。PC班としては時折Rメンバーがアップする画像をちょいちょいと印刷、また本部に届けべき情報を選択して収集、時には15F無線班が受信した画像を印刷～更にピットマップからJPEGに変換……など、といった役割でした。

サポートセンター11Fでは当初、ボランティアさんが使うマシンのうちの4号機を使って活動する予定でしたがボランティア向けマシンのコンテンツフィルタの影響でいきなり神奈川災害ボランティアネットワーク(KSVN)のHPが開けず、急遽11F職員用マシンを使って活動を行うことになりました。

小田原市の方に、今回の訓練でこちらから情報を投げる「口」がなかったのは残念でした。しかし、KSVNの掲示板に、一度に情報を集積できたことは、情報の分散を防ぐ意味でよかったですと思っています。訓練終了後、改めて県民センター回線からのインターネット接続試験を行いました。

1. 101・102号室の予備回線から0発信でインターネットへ
 2. 1Fカウンター裏にあるLANを介してインターネットへ
- 1は、電話・FAXが確実に使えたのに、インターネットへの接続失敗～断念、2は、どうやら職員用LANではないかと思われ、11Fボラ用マシンのグループに属するマシン達の設定では接続できず～断念まだまだ課題が残ります。11Fボラ用マシン達についても、サポセンが災害時体制に入った場合の、コンテンツフィルターをカットする施策が必要、と

永田さんの活動内容は神奈川新聞に掲載されました。

... ..

以下神奈川R Bメンバー参加者各位の感想、反省を列記します。

坂倉・バイク隊

港からアリーナまでの道路は障害物もなく舗装路で順調な走行出来ましたが、実際の災害地の状況と重ね合わせてみた場合の「道路状況認識」あるいは「必要最小限度の走行訓練」の必要性を感じました。

例えば訓練日(8/25)に経験した土手登攀や階段走行等。

神林・バイク隊

まず、集合地点は小田原漁港でしたが実際に震災が起こった場合を想定すると個人個人が自宅を出発して50~60キロ離れた場所に集まると言うのは現実的では無いように思います。やはり一度サポセンなりに集合した後、公的機関から依頼を受けて現地へ赴くといった形になると思います。そうなれば必然的に緊急車両扱いになり一般車が通行不能な道路も通れるようになるでしょう。

終了後各メディアにおいて神奈川R Bの名前が掲載されましたがまだまだ今回だけでは一般に認知されることはないでしょう。時間は多少掛かるとは思いますがこれからもこのようなイベントに積極的に参加して地道にR Bの存在をアピールしていかなければならないと思います。

今回の訓練参加は神奈川R Bとして、とても貴重な経験と諸機関への取っ掛けができたと思います。

鈴木功・バイク隊

・ルート探しについて

今回は事前練習もあったので、走行ルートは把握していましたが実際の場合にはなかなか思ったルートを走る事ができないと思います。2~3名程度の先走班を送り、ある程度のルートを探してから搬送班が出発するやり方は如何でしょうか？

・時差出発はどうか



会場からの退場風景

先走班が探したルートも時間と共に交通状況が変化すると思います。今回の様に複数の搬送班がある場合、先走班の後にA班が出発し、その様子を見ながら次のB班が出発する方

法は如何でしょうか？

・最終確認不足？

荷物を積み込んだ後、出発前にもう一度、物資数の確認や共通地図を使っのルートの確認をしたら如何でしょう？

・白地図活用

白地図の活用も必要。

・サブリーダーの必要性

今回は7名1班ぐらいだったので、サブリーダーは2名の方がいた方が安心？7台のバイクだと途中で切れてしまう可能性があると思うので先頭:サブリーダーA、真中:サブリーダーB、最後:リーダーでいかがでしょう？

「運ぶ」という側面から自分なりに感じた事を書いてみました。

Gie@Wizard A.S. こと 坂本

今回の防災訓練に、私は「本部車両サポートチーム」として参加しまし

た。事前に無線のロケーションのいい場所を探しておいたことにより小田原アリーナ基地局ともスムーズに交信ができ、更に、バイク隊との連絡も密に取ることができました。多分、今回の場所であれば、私はバイクでも同じ無線機とアンテナを使用する為、バイクでの「本部サポートチーム」として行動した場合でも、十二分に連絡を取ることが可能だと思います。また、今回は池田さんが私と同行し、タイムスケジュールを取ってくれた為、とても有意義なサポート活動ができたと思います。しかし、やはり本部サポートチームのメンバーが少なかった事が、多少の不備として認められました。例えば、無線交信中には電話の受け取りができないこと、行動ログを取るにしても、RBと小田原アリーナ発信の2重に流れる情報の聞き取りが大変な為、別々のメンバーが聞き取りとして必要と思いました。また、今回は、私の車両に池田さんが同乗して本部機能として活動しましたが、本部車両に無線機がある状態では、もう一人がハンディーを使用可能であったとしても、同一周波数帯による送信を行なおうとすると、ハウリングが起こり、交信はできないという状態である為、無線連絡を2重で行なう場合、本部車両は2台必要と感じました。

これらの結果から、今後の本部サポートチームの運用は

1. 車2台、または本部テント設置1つ要、無線設備。但し、同乗者が無線を使用可能な状態でも可。また、2つの周波数を同時に聞き取りできる状態である必要がある。これは、車2台に分かれた時、お互いのやり取り内容を聴取する必要があり、それがなければ、車2台間での行き交いが必要になってしまう為。

2. 電話対応/無線交信内容聴取無線と電話との両方の対応に追われてしまうと、情報が途切れたり、聞き漏らしをしてしまう為

3. インターネット掲示板/無線交信内容聴取

今回は搬送終了後以外に行ないませんが、できるならば、掲示板での逐次書き込みもあって良かったと思いました。

2と3に関しては、実務作業が無く無線の交信を聞くのみであったとしても、無線使用者が交信中のもう一方交信情報のログを取る必要がある為、やはり無線設備(受信のみであったとしても)は必要と思います。また、今回、手塚さんから「情報が欲しい」という電話がありました。電話サポートの場合、バイク隊にも逐次電話に出ることができるか、定位置に到着後、必ず本部車両に問い合わせるメンバーが必要と感じました。その他、実際の災害が起こった場合、車で今回の場所に行けるかが問題になると思います。そういう意味合いでは、バイクで高台まで行くか、車で低い場所であったとしても、本部の車両のある場所は見晴らしのいい場所(広い駐車場など)に設置し、無線のアンテナを高い位置に設置する設備は必要と感じました。

辻谷・バイク隊

「防災訓練に参加して」

自分自身、こういったシチュエーションに慣れていないからか、ただルートを走っただけになってしまったのではないかと反省しています。装備にしても、もっと「訓練である」という所を意識して、実際の被災地状況などを想定して、飲食物、救急用品の準備をすれば良かったと思う。個人的に、ノートPCを持参してみました。バイクを操りながらパソコンを使うというのはとても難しく、リアルタイムの情報を得るのには、やはり無線が一番適しているのではないかと感じました。パソコンはバッテリーの問題もあり、バイクでは向きがもれませんが、

梶・バイク隊

日曜は暑くて疲れしました。災害時にはもっと長い時間、もっと厳しい状況、もっとひどい心身の疲れ方になるのでしょうか。助ける側助けられる側、疲れもみんな均等に背負い、前向きな気持ちを支えられる団体でありますように。

井上・バイク隊及び本部席

上記の梶さんの感想に呼応して。

同感です。以下、少々話がずれるかもしれませんが、日曜日の訓練は「スケジュールを間違わずにこなす」ことの比重が大きなものでした。批判では無く、仕方が無い話でもあり、このような訓練もある意味必要でしょう。緊張感がある、と言われればそうですが、疲れている人が「疲れている」と言える雰囲気では無かった様に思えます。考えすぎかもしれませんが、もちろん、言えばそれなりの対応をメンバーがしてくれる信頼はありますし、ボランティアに参加する人は「疲れている」と言う義務があるべきかもしれませんが、上手く言えませんが、雰囲気というのは恐ろしい一面があると感じました。周りに悲壮した被災者が沢山いる。メンバーはがむしゃらに頑張っている。私より年配の方たちも一生懸命。しかも私は代表役。各自立場の違いはあるでしょうが、この仮定を想像して、客観的に自分の心身状態を判断できる自信がありません。自分の様々な状況は絶対判断では無く、他人との比較することが多かったからかもしれません。常に、もう少しやれる、とも、被災地支援の経験のある方は是非展開して頂きたいです。今まで似た話は多く聞いて頭では理解していたつもりですが、どうも私の体は理解できていない様です。被災地での活動の技術面について、平常時に努力して向上させるのは必要ですが、私は割と楽観視しています。これだけ優秀で他人に優しいメンバーが揃ってればなんとか当面の作業はこなせると。それよりも、メンバーが皆、被災地活動から安全に帰宅できるか否かが、最も心配であり、その心配さえある程度解消できれば、今後何ら臆することなく、出勤の通達をできると思います。

矢代・バイク隊先導役

私は、今回の七都県市を参加機関との打ち合わせを含め参加した。自分が無事でも、発災時には通行止めに阻まれて私はたぶん小田原へはたどり着けなかったかもしれない。現実的には各メンバー在住の所轄署にて、緊マークが発行されなかったら自宅から出ることもできない可能性も有る。それと、発災時には十何台も連なって走行する事はまずない。2・3台グループでの行動が理想であり、あまり連なっての走行は隊全体の行動に支障をきたす。

私は光栄ながら(ビデオを積んだから?)先導をさせていただいたが先導しながらも、みんなの活動を私が記録したビデオがこれからの、みんなの活動のパネになってくれたらなあ、と思ってビデオを用意した。先導を仰せつかった私は至って冷静を装っていたが・・・標識を見落とさないようにして(道路案内標識じゃないよ交通規制標識ね。)

会場には消えかかっている白線がわずかに「ここを通るんだぞ」と囁いているに過ぎなかった。私が通るコースをRBだけではなくトラック協会もたどることになる。とりあえず、無事(で、当たり前なんだけど)会場走行が済んで良かった。私はこの訓練で本番では今回以上にその場で冷静かつ的確な判断を要求される事を痛感した。いやあ、小田原魚港を出るときに、一時停止が長かったけど車がとぎれなかったもんで、特に正義(爆)のバイク乗り団体としては周りの通行車両に気をを使うね

やっぱRBだったらそのくらい当たり前か・・・。

そうそう、会場内走行中にスタンディングでふらついてたメンバーがいたそうです。ビデオ撮影ミスでさっぱり判りませんし思い当たる節がある方は講習会等で精進して下さい。砧に砂利パイロンの練習が出来ます。



物資積み下ろし、蛭田にて

古賀・バイク隊

こんなに長時間バイクに乗ったのは、ほんとに久しぶりでした。狭いモト車のシートのでお尻が痛くなり今もちょっと変です。現地へのアクセス

は、宇田津さんと一緒にふたりで走行できたので心強かった。

当初、途中ではぐれてしまうのではないかと不安でしたが、そんなハプニングもなくなによりでした。できれば、無線で交信しながら行けば、もっとツーリング(笑)の楽しみも倍加したのではないかと密かに思っています。それにしても、帰途、大井から中井までの道は気持ちよかったですね。今回の成果は、神奈川RBと行政との地道な打ち合わせの積み重ねなくてはありえなかった。あらためて、訓練の企画から尽力された隊員の皆様方に感謝します。

奥村・記録班

今回「物資搬送(訓練)」のためにバイク班、記録班、本部・・・と役割分担しましたが、平常時もこのような体制で活動し、訓練を重ねてくことで団体としての力をよりつけていけるのではないかと思います。ただ、我々はプロではないので、「本番」で完璧な準備や行動ができる人はいないと思います。メンバーが互いに補いあえる団体になっていければ良いなあと思います。そういう意味で自分は、ドタ参だったこともありましたが自分のことで頭が一杯になってることが多かった点が要・反省です。NTTさんがバイク隊を編成されていた事が意外な発見でした。帽子と飲料水のお陰で暑さはそれほど気にはなりませんでした。

手塚・記録班

感想1. 予定や状況の把握に不足がありました。かなり前の予定表の「10:30 漁港出発」だけを覚えていたので「物資積み込み次第出発」したバイク隊が、想定していた時間より大幅に早く待機場所に突然現れたのに驚きました。(一言じゃないなあ)

感想2. 今回の訓練は、行政組織のもとで動く為に突き付けられた条件のクリアや準備の努力なしには、実現できなかったと思います。しかしその反面、神奈川災害ボラネットなど、今まで良い関係を育んできた他のボランティア間との連携が希薄だった印象もあります。行政・参加企業・ボランティアなどのあらゆる参加団体が、それぞれどう言う役割を担っているのかの全体像をもっと把握した上で、「神奈川RBだからできること」をきちんと見出せば良かったと思います。もっとも、それらは今回の訓練で初めて我々の存在を知った「他者」から教えてもらえる事でもあるのかも知れません。とにかく訓練では「神奈川RBがすべき事」ばかりを考えて、訓練その物を見て「他の団体はこんな事をするのか」と言うお勉強にまで興味を持つ余裕が無かった気がします。「

緊標章も無しに「本番」で走れるのか?」という疑問についても答えが出ませんでしたね。もしかしたら本当は、現実的な事を考えれば神奈川RBが会場内走行をした時にアナウンスされた、「七都県市災害援助協定により・・・」の意味から言えば、神奈川県内の訓練会場は他

県RBに走って貰い、我々は他県の訓練会場に遠征参加するのが正解なのかなあ?・・・などと思いました。

中島さんから寄稿をいただきました。

中島@八ヶ岳

・KRB.の皆さん

今回の小田原訓練参加に関する感想を拝見しています。皆さんがそれぞれの立場や思いで行動されて感じたこと、これをアナンスメントされていることが大変重要な点と考えます。物資搬送隊、現地本部情報管理隊、後方支援本部(通信)隊など各活動部隊が感じたことは担当外の他の隊員と問題点を共有出来るからです。有事の際にとるべき自分の行動の一つの目安として大変参考になります。今回は県主導型のシナリオの一環ではあっても今後の災害時にKRB.が自らの判断でグループとして行動するにはどうするか?以前、井上さんがまとめてくれたKRB.活動手順が生きてくるのではないのでしょうか。今回の感想とこのような資料を付け合せながら行動手順・指針をリニューアルすることもスキルアップになるのでは?このような訓練の積み重ねが、誰もが”その時”後方支援部隊、現地本部、搬送隊などどの活動でもこなし得る、言わば「金太郎飴」的な力を付ける良い機会とも考えます。今回参加できなかった方も今後、機会があれば多いに参加しましょう。

・緊急時の通行について
私は日赤・山梨、東京、神奈川の各災害救護ボランティア登録をしています。現在、東京支部からは日赤のマーク入りベストキャップを支給され、緊急時はこれを着用。写真入ネームカードには日赤の救護活動スタッフとして通行許可を願いたい旨の表示が印刷
東海地震や神奈川県西部地震が想定される中、小田原地区は「天下の険」箱根を西に抱き、伊豆、静岡との境にあり要衝の地といえます。当RBにとっても参加により多くのことが得られると確信しています。参加形態は、今後神奈川県防災局等と詰めてゆくこととなりますが神奈川県RBの広報のため、また、会員の訓練の場としても多くの方の参加を望んでいます。これに伴い8月にはシミュレーションも予定していますので皆様宜しくお願致します。

イベントレポート

草津ツーリング&ライダー救急講習レポート

太田隆行

暑い!酷暑の7月20-21日ツーリングと救急講習の2本立てのイベントが行われました。バイク分科会リーダー渡辺さんの呼びかけで神奈川県RBをはじめとして総勢20名余りが参加し群馬県は草津温泉・草津セミナーハウスにて行われました。



講師によるヘルメットの脱がせ方

今回はバイク運転者を対象ということで吾妻広域消防本部西部消防署、富沢さん、山田さんの指導のもと、心肺蘇生法、ヘルメットの脱がせ方、三角巾による出血手当て、傷病者の搬送方法など、実践に即した内容となりました。

中には初めて三角巾を手にする人もあり、講師の方にはご苦労をおかけしました。講習後の質問も実践的な内容が続出し「必ず今後役に立てられる。」確信が得られました。

翌日は快晴の中、草津温泉から灼熱の嬬恋高原を経て、鹿沢口より



湯の丸高原、地蔵峠に向かいました。1700mを越す地蔵峠は冬はスキー場として

も知られる景勝地です。高原の涼しさも束の間、20台のバイクは地蔵峠を小諸市内に向けて下りました。地蔵峠の麓は江戸時代の名力士雷電為右衛門の生家といわれており由来の名所や土産物などがあります。



21日出発前 救命救急講習受講のメンバー全員で

しかしながら暑い!!小諸市内をアスファルトの照り返しの中を走行し、佐久甲州街道・R141を南下する。小諸市内、佐久市内を抜けると右に八ヶ岳、左に秩父連山を見ながら快調に走れた。目指すは、八ヶ岳の麓、おにがわらです。途中の暑さの為不調になったバイクを休ませながら小海、野辺山高原を通り、八ヶ岳高原道路方面へ。近影に八ヶ岳の山容を捉えながら大泉村に入ると突然灼熱地獄から開放され涼風を感じました。「標高1700mの湯の丸高原より、1400mの大泉村のほうが涼しいのは何故?」と思いながら山を下ればすぐにおにがわら。中島さんの笑顔に迎えられて日と時の休息。涼しさとおいしいお好み焼きで元気になったところで出発。

清里からクリスタルラインを抜けて増富温泉、みずがき湖へ。クリスタルラインは前週の台風で途中、がけ崩れあり、道路の半分は土砂で埋まっているところありで、難行となりました。でも山の中は涼しいから良いですね。



どちらの道が正しいか迷う神林さん、坂本さん

そんなこんなで塩川ダムで気が付くともう16時、そろそろツーリングも切り上げの時間。葦崎ICより中央道に乗り、双葉PAで最後のミーティング。50Kの渋滞となっているので安全のため集団走行は解除、解散。の渡辺BBLの指示に従い解散となりました。

解散前、最後の歓談。世話役で疲れた渡辺さんの顔に影が



渡辺さん 楽しく、また為になる企画をありがとうございました。灼熱の二日間、20数台皆が事故も無く帰ってこられたのは企画から進行まで全てにわたり皆の状態を気遣い、諸所に適切な指示を出した渡辺さんのおかげです。合掌

所々に適切な指示を出した渡辺さんのおかげです。合掌

神奈川RB会報発行にあたりまして、お好み焼き「おにがわら」様のご支援を頂いております。みんなでいきましょう！



関西風・広島風 お好み焼き おにがわら

店主：中島信義 山梨県北巨摩郡大泉村 Tel:0551-38-4030

JR小海線甲斐大泉駅北約1.5km・ダイヤモンド八ヶ岳ホテル前

夏季(7・8月) 11:30~14:30、17:30~20:30(火・水定休 祝日は営業) 上記以外の期間 11:30~14:30、17:00~20:00 (火・水定休)

【その他のイベント】

7/6 - 7 沼津RB主催想定訓練参加・8/4運営ミーティング・8/25
七都県市防災訓練予行演習・9/7臨時ミーティング・7/15, 7/20
, 8/20, 9/17: ボランティアのための救護法研修会

・・・！！お知らせ！！・・・

神奈川RB携帯電話用サイト開設中

<http://k.excite.co.jp/hp/u/krpkrb/>

(i-mode/J-sky/EZwebの各形式対応)

会員向けの近日イベント予定などを載せていきます。

非常時には緊急のお知らせを出す事も検討中です。

皆さんの携帯電話にアドレス登録をしてください

編集後記

本当に暑い夏でしたね。皆さんの夏は如何でしたか？かくいう私は乗鞍、名古屋、三重、四国、丹後半島と脈絡の無い単独ツーリングを3泊4日で敢行しました。実は単独での2泊以上のツマリングは今回が初めてでしたので結構な。転んでステップフェリーでウェアを挟んだままロープを掛けたままとジの連続でした。



孀恋にて

でも旅は良いもの。トラブルのたびに人の暖かさに触れ合えます。自己責任を誓う中で全く知らない方々の優しさを知り、また独りでの旅に出たくなった夏でした。(O)

神奈川RB事務局

代表：井上哲也、事務局長：手塚則生

郵送先：〒221 0835 神奈川県横浜市神奈川区鶴屋町2 24 2

かながわ県民活動サポートセンターレターケース No.81

Fax: 045-312-1862(取次ぎ:レターケース No.81 宛て)

URL: <http://www2.airnet.ne.jp/krb/>

バイクによる災害時救援活動支援ボランティア

神奈川・レスキューサポート・バイクネットワーク会報(年4回発行)

発行者：神奈川RB会報担当 太田隆行